



NPO法人
原発ゼロ市民共同 かわさき発電所 ニュースレター

でん太通信

den ta tu ~ sin

●発行 2016.9.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■浜岡原発学習会（第1回）開催報告■ ～第一線の原発弁護士に学ぶ原発訴訟～

当NPO法人は、神奈川県で暮らしている私たちにとって一番近い「浜岡原発」について学んでみようという企画を立ち上げ、その第1回目となる学習会を8月28日（日）、中原市民館にて開催しました。

今回講師として呼び出したのは、弁護士の甫守（ほもり）一樹先生です。甫守先生は、さくら共同法律事務所に所属され、原発訴訟の専従弁護士として、全国の原発訴訟の第一線で活躍されています。甫守先生には、「原発訴訟基礎講座 原発差止訴訟のこれまでとこれから」というテーマでお話をいただきました。



原発訴訟・専従弁護士 ^{ほもり} 甫守一樹先生

原発訴訟はこれまでいくつも提起されてきていますが、2011年3月11日の福島原発事故が起こるまでは、なかなか勝つことのできないものでした。その勝率は2勝36敗、約5%という状況でした。しかし、福島原発事故を経て、裁判所の判断に変化がみられるようになりました。福島原発事故以降は、2014年5月21日の福井地裁での「大飯原発差し止め訴訟」を初めとし、これまでに4件の請求認容判決ないし決定が出されています。

こうした過去の原発訴訟における裁判所の考え方や、福島原発事故後の裁判所の考え方について、甫守先生ご自身の様々なご経験を交えながら、分かりやすく説明をいただきました。現状では全国の裁判所としての統一的な見方のようなものがあるわけではなく、過渡期の状態にあるということがよく分かりました。

また、仮に私たち神奈川県民が浜岡原発について訴訟を起こすとなれば、どのような点に難しさがあるのか、ということについてもお話をいただきました。具体的には、浜岡原発と私たちとの距離の問題が最大のネックとなるということです。距離の問題で訴訟に耐えうる理屈を用意できるかどうかということはもちろん、訴訟をどのようなものとして位置づけるかということについても、十分な議論が必要であるとのこと指摘をいただきました。

原発訴訟の第一線で活躍される甫守先生のお話は、訴訟についてのリアリティのあるもので、大変勉強になりました。甫守先生、本当にありがとうございました。

理事 岩坂 康佑（弁護士）



■福島スタディツアーを終えて思うこと■



半農・半電、えこえね南相馬研究機構「再エネの里」

去る8月20日・21日、「あれから5年、スタディ&現地7人との交流ツアー、南相馬+浪江町請戸地区の被災時と今を実感！」をキャッチフレーズに福島スタディツアーを実施し、18名が参加しました。川崎で市民活動をしている方々が多かったのも初のことでした。

2日目は、再エネの最前線に行く「南相馬ソーラー・アグリパーク」と「再エネの里」のソーラーシェアリングを見学しました。

●原発に変わる産業がなければならない

「原発ゼロといっても、原発に変わる産業がなければならない。産業のない自治体は消滅するしかない」というのは福島市立総合病院の金澤幸夫医院長。私自身は10回以上金澤医院長の話を知っていますが、今回初めて聞いた言葉でした。

この病院は福島事故から23[㏎]圏内にある初期被ばく医療機関災害拠点。金澤医院長は故郷のこの地で原発事故を体験しています。3月12日、病院の救急医療入り口で12 μ SVを測定。14日、3号機の水素爆発後、病院に残るかどうかがスタッフの判断に委ねる（その上で避難した看護師82名や技師6名に避難先の病院で働く場を斡旋。その結果、他の病院に比べて帰ってくるスタッフが多かったという）。15日、病院の食料が底をつく。この体験から「川内原発は10[㏎]圏内しか避難計画を立てないのはおかしい」と断言しました。

しかし、福島の甲状腺がんについては「スクリーニング効果説」と原発事故との関連性には否定的です。こうした説に「残念だ」とい声バスの中で多数寄せられ、一方では「ホールボディカウンター（特に乳幼児用）の現物を見ると、医療技術に対してワクワクしました。放射線の人体に対する影響を質問しましたが、冷静な危害分析に基づいたリスク顕在化への備えを感じさせる回答を得ました」というアンケートを書いてくれた方もありました。私は福島の放射能影響について数多く集会に出っていますが、最近になってこの説も一部はあるかと思うようになっていきます。

●常に異論を受け入れる姿勢を

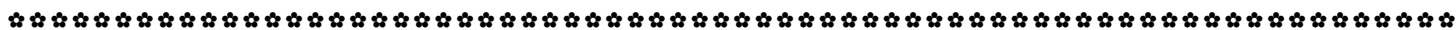
「原発事故がなければ、こんなことがなかった」と南相馬ボランティアガイドの長谷川明さん。今回の企画は「南相馬に一人でも多く人を連れていくことを使命としている」須摩修一さん（川崎在住）のご協力をいただきました。今回で26回目となるツアーのすべてを長谷川さんが案内。福島原発の横を通過する国道6号線では「線量が高いので絶対に窓を開けないでください」「ここは線量が高いのですが、1分間での数値なのでそこも考えほしい」「今、



南相馬では線量があまり高くないので、放射能は気持ちの問題になっている、と私は思います」と長谷川さんは語っています。

参加者の中には「ご案内や講話をいただいた方からは、放射線被害の実情はほぼ聞かれず、むしろ、どちらかといえば否定とは言わないまでも具体的に語られることはありませんでした」という声もありました。しかし、現地の人にとっては具体的な放射線被害より、もっと知って欲しいことがあると感じています。市民活動家は常に異論を受け入れる姿勢がなければ、活動は広げられないでしょう。自分の立場とは違う、こうした現地の人々の生の声を聴いて欲しいと想うのです。

理事 高橋 喜宣 きよし



■9/24「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」■

～ Five years after 3.11～

2011年3月11日の東日本大震災、福島第一原子力発電所事故から、5年。

あの日以降、これまでの平穏な生活を失った方々が、沢山います。そのなかでも、何とか、未来を拓こうとしている方もいます。

ここ、川崎でも、自分のため、家族のため、今、私たち一人一人が何かしなければならぬと、声をあげてみよう、動いてみようと思意をした人が沢山いました。

「3.11を忘れてはならない。3.11を繰り返してはならない。」

そんな想いを持った人たちが、私たちの住む川崎で、「市民がつくった電気でお祭りをやろう!」とはじまった「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」。今年で2回目になります。

川崎に寄り添って流れる多摩川の岸边のお祭りが、みなさんにとって、地域と人がつながるきっかけに、そして、あらためて、3.11を想うきっかけになれば幸いです。

ぜひご参加ください。

理事長 川岸 卓哉
(おひさまフェス実行委員長)

おひさまフェスの音楽ステージと星空上映会の電源は、当NPO法人の発電所2号機で発電した電気をEV車に充電して運んできた電気です。



開催宣言!
energy
に活動する市民団体が集まる
星空上映会inかわさき」を開催
のおひさまフェス×星空上
ご力を入れます。
再発災につながるきっかけを
助ける心を育む精神を大事に
コミュニティの発展・進
ごぞろ
じ

きたがわてつ
宿町原草花太鼓と和太鼓仲間
別・送電ライブ!
(二重奏人、現役機軸&準機軸)
ほか

子どもひろば
竹紙工(クワイス竹節、竹けんだま)
イス作り体験
子ども向け防災ワークショップ

飲食・物販 など
やきとり、地ビール、ベークル、かき水
ケバブ、やきそばなど

東北物産
フリーマーケット
カイロプラクティック
健康チェック

electric powered by
NPO:法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

参加・出店団体 2016.07.10現在

一般社団法人ピーオーブ / NPO法人AWEIジャパン・たかつ / NPO法人(原発ゼロ市民共同かわさき発電所) / NPO法人多摩川エコミュージアム
男の手料理 職 / カイロプラクティックセンター・始江 / 神奈川自治体健康研究所 川崎支所 / 株式会社太陽住居 / 川崎健康生活協同組合
かわさき生活クラブ生協 / 川崎市住宅相談推進委員会 / 希望のつばさプロジェクト / くらしの相談センター / クラフトヒューム・ソラライト
原発ゼロへのカウントダウンinかわさき / SALAM KEBAB / 社会福祉法人なごみ福祉社会多摩川緑地工房 / 社会福祉法人はぐるまの会
宿河原・長尾チーム / 鈴木市橋書店 / ソーラーチーム&かわさき市民共同おひさまプロジェクト / 高津環境型社会を考える会 / 竹組工務店
パワーアップキャンペーン運営委員会 / ベーグルカニニー / やすい丸商店 / やらうらにもほらうい / ワークスコープ・センター事務局 神奈川事業本部



寄稿 ■活動紹介コーナー■ No.1

今月号より、他団体の方から活動をご紹介いただくコーナーを連載していきます。

No.1 は、当法人を立ち上げる前からご支援いただいている山崎求博さんから寄稿いただきました。

●新たな発電所を建設します！

「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」(足温ネット) 事務局長 山崎 求博

私たちが太陽光発電による「市民立発電所」を建設したのは、今から 17 年前のことです。発電出力 5.4kW の発電所にかかった建設費用は 590 万円、kW あたり建設単価は 100 万円を超えていました。

そして、2013 年には全量売電事業「えど・そら」を始めました。2 か所で計 22.1kW の発電所を建設し、900 万円の疑似私募債を集めました。建設単価は 30 万円台に下がり、買取価格も kWh あたり 42 円だったので 10 年以内に返済できる見通しです。営利は望むべくもありませんが、少なくとも借りたお金を返すことができる事業になりました。売電収入は、地元の信用金庫に開設した口座に振り込まれています。

ところが、太陽光発電の買取価格は kWh あたり 24 円にまで下がってしまいました。事業として成り立つのか難しいと思う方々も多いことと思います。

しかし、私たちは次の発電所建設を決めました。場所は周囲を住宅地に囲まれた立体駐車場の 2 階で、発電出力は 28.8kW とこれまでより大きなものですが、建設費用は 640 万円、建設単価は 22 万円ほどです。

今回の資金調達は、地元信用金庫からの融資、事業収入からの拠出金、そして無配当出資の募集でまかないます。屋根の上と違って固定資産税がかかりますが、買取価格が 24 円でも 10 年以内での返済を見込んでいます。

買取価格が下がっても、価格の安価な太陽光発電パネルを選び、発電出力を大きくすれば、一定の売電収入が見込め、事業計画も立てやすくなることがわかりました。言うなればメガソーラーの論理ですが、事業性を担保できる面積が分かれば、適地を探しやすくなると思います。

また、周辺住民の理解を得るため、発電パネルに太陽光が反射しない素材を選ぶとともに、自治会に対して震災発生による停電時に自立発電から電力を供給することを提案するつもりです。

これからも私たちは、気候変動の影響を受けにくい安心安全な地域社会の創造をめざして、エネルギー事業に取り組んでいきます。

◆足温ネット HP <http://www.sokuon-net.org>



でん太通信は毎月15日に発行しています。

【編集後記】

9月の長雨が続き、9/24のおひさまフェスの天気が心配です・・・どうか雨が降りませんように！

今月、第25号から新しいコーナーが始まります。他の市民団体の最新情報をお届けしつつ、連携を深めていければ幸いです。
(加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

